

## 環境産業委員会会議録

- 1 期 日 令和2年8月19日（水）
- 2 会 場 第2委員会室
- 3 開会時刻 午前10時23分
- 4 閉会時刻 午前11時13分
- 5 出席者 委員長 山本 裕三 副委員長 嶺岡 慎悟  
委 員 山本 行男 委 員 二村 禮一  
委 員 鈴木 久裕 委 員 榛村 航一  
（当局側出席者） 協働環境部長、産業経済部長、都市建設部長、  
産業経済部付参与、都市建設部付参与、上下水道  
部長、所管課長  
（事務局出席者） 議事調査係 望月教代 赤堀義幸
- 6 審査事項
- ・議案第103号 令和2年度掛川市一般会計補正予算（第6号）について
    - 第1条 歳入歳出予算の補正
    - 歳入中 所管部分
    - 歳出中 第2款 総務費（第1項）
      - 第5款 労働費
      - 第6款 農林水産業費
      - 第7款 商工費
      - 第11款 災害復旧費
- 7 会議の概要 別紙資料のとおり

以上のとおり、報告いたします。

令和2年8月19日

市議会議長 大石 勇 様

環境産業委員長 山本裕三

## 7 会議の概要

令和2年8月19日（水）午前10時23分から、第2委員会室において全委員出席のもと開催。

### 1) 委員長あいさつ

### 2) 付託案件審査

・議案第103号 令和2年度掛川市一般会計補正予算（第6号）について

第1条 歳入歳出予算の補正

歳入中 所管部分

歳出中 第2款 総務費（第1項）

第5款 労働費

第6款 農林水産業費

第7款 商工費

第11款 災害復旧費

〔文化・スポーツ振興課説明 10:25～10:28〕

〔質 疑 10:28～10:39〕

○委員長（山本裕三君） 担当課の説明が終わった。質疑をお願いします。

○委員（鈴木久裕君） 文化芸術公演等配信事業費の中で、ワークショップという御説明あったんですけども、ワークショップ、具体的にどんなものがあるか。ワークショップというのは外向けじゃなくて、あくまで自分たちが何か作り上げていく過程みたいな、そういうイメージがあるんですけども、その辺はどうなのか。

●文化・スポーツ振興課長（中山善文君） 例えば、講師が動画の前において、いろんな料理でもそうですけれども、作ったものを見て、皆さんと一緒に作る。それが料理だけじゃなくていろんな文化、いろんな作品で、そういったものを講師からの発信で、それを見ている人が一緒になって作るようなイメージである。

○委員長（山本裕三君） 今の同じ項目で、条件というか、この文化というところの範囲をどの程度までの広さを考えて、例えばアニメとか、どこまでを文化というのか。

●文化・スポーツ振興課長（中山善文君） 今、要綱がほぼ出来上がっているが、文学、音楽、芸

術、写真、演劇、舞踊、映画、漫画、アニメーション、コンピューター、その他電子機器を使ったメディア芸術、落語や講談、そういったもの全て対象にしている。

○副委員長（嶺岡慎悟君） 2番の掛川城バーチャルのところ、いつも聞くことがあるかもしれないが、この後の高天神城と横須賀城の将来のことはどう考えているのか。

●文化・スポーツ振興課長（中山善文君） もちろんこのような機会に掛川城をPRできて、入場者が増える、登城できない方も見えるということが期待できるので、今、私どものほうも今後こういったデジタル化というのが必要になってくると思いますので、高天神城や横須賀城のあたりは、これはまだ分かりませんが、私が考える中では、そこへ行くとQRコードがあって、そこにスマホをかざすと当時の城郭とか町並みが見えることも全国でも始めているので、そういった方向ができればいいかなとは思っている。

●協働環境部長（栗田一吉君） 補足で、基本的に、今回の掛川城はデータがあるので、取っかかりとしては、最初のハードルがもう済んでいましたということがある。高天神城や、それこそ横須賀城、これについてはまずデータを作るところから始めないといけないということもある。今後本質的にはそういうのをやっていって、3つのお城があるのでそれらを絡めてやはりアピールしていったほうが掛川城一本でいくよりは全然波及効果は高いと思っている。それがVRになるのかARになるのか、その辺は分からないが、やはり基礎的なデータを今後整えながら、掛川城の次は高天神なり横須賀城という展開をやっぴり考えていきたいというのは現下の考えである。

○委員長（山本裕三君） ここまで至った経緯は。

●協働環境部長（栗田一吉君） 市のホームページのオープンデータ掛川という項目で検索していただくと、現在、アップロードされているデータが市のホームページ上に34件ほどあって、そのうち31番目が今回の掛川城の点群データであり、それこそいろんなデータがあり2番目には市内行政区の読み方とかあり、それをクリックすると県のデータベースに飛んで、仁藤町とかそういう読み方が出たりとか、そういうのが幾つかある。

この目的は、やはりオープンになっているデータ、個人情報みたいにオープンにできないものが当然あるが、そうでないものを除いて、オープンにできるデータはどんどん公開していくことで地域課題の解決を図り、市民生活の向上、企業活動の活性化及び社会経済の発展に寄与するというところで、このホームページが立ち上がったのもまだ2年か1年半ぐらいということで、そういう取組が始まっているため、そういった中でやはりオープンできるものはしていく。その中で、今回その趣旨に賛同していただいた藤本組とか関係者の方が勝手連としてデータを挙げていただいた、そういう形と思っている。

これについては、静岡県もかなり熱心に取り組んでいただいて、全国の都道府県を調べても、多分静岡県が最先端をいっているのではないかということで、県の交通基盤部の中のホームページ上にデータベースが構築されていて、データをクリックすると、そこに掛川城のデータが飛んで、全部で1本200メガの3Dデータなんですが、24本挙がっている。それをフリーソフトで読み込むと、掛川城が展開できるということになるため、今そのデータを、パソコンで展開していますので、ちょっと見ていただくように回す。

○委員長（山本裕三君） 今後、点群データを使った製作費というところなのかと、費用のところがどういう算出をしているのかよく分からないというところ、今後の維持というか保守に年間どれくらいかかるのかというところ、あとは作った後の成果物をどのような形でPRしていくのかというところ含めて、今後詰めていっていただけたら。何か説明できる場所があれば。

●文化・スポーツ振興課長（中山善文君） 詳しいそれぞれの金額は出ていないが、実装内容としては10項目以上にわたる。先ほど言ったような、議会でも説明があった貯蔵品の表示やパノラマ静止画、パノラマ静止画からウォークスルービューを作ったり、それぞれで約1,000万円から1,300万円ということになる。こちらのほうは委託の競争入札等でどれくらいになるか分からないが、そういう金額で見積りを頂いている。

この保守については、さっき言ったように委託の内容で保守も含めて、プロポーザルにするのか競争入札にするか分からないが、提案を頂いてやっていきたいと思う。

PRについてはもちろんホームページ上やいろんな方法で掛川城だけでなくバーチャルが見られる一つのサイトがあるため、そういったところにも登録させていただければと思っている。

○委員（山本行男君） 今、データを見させてもらっているが、ちょっと分からないなと思ったけれども、これはVRで見ているが、見ている方は説明みたいなのは分かるのか。

●文化・スポーツ振興課長（中山善文君） 恐らく、ちょっと私たちも実際にどうなるかわかりませんが、自分で中へ入っていくと、表示項目がいろいろ出て、そこをクリックするとここに何かがあるとかというようなイメージが出ると思うが、そういった形になると思う。

●協働環境部長（栗田一吉君） 補足で、掛川城に登ると甲冑とかしゃちほこなど展示がしてあるが、そういうところをぱっと見ると、そこにポップアップで表示が出て、これは何とかという甲冑です。それをクリックすると、その説明が出るとか、あるいはそこからリンクで専門のところへ飛ぶとか、ネット上のブラウザ上で見ますので、そういう連携はできてくるのかなとは思う。

単純に見て、登るというよりは、これは何じゃいというのものもある意味学習しながらというか、そういう形で関心を持っていただく。

逆に、バーチャルでもうおなかいっぱいになってもらっても困るので、見たら、リアルを見たいと思ってもらうように仕向けていくということが大事かなと思っている。

○委員（鈴木久裕君） あくまでウォークビューということで、遠くの人がパソコン上で多分マウスで見る、そういうイメージであるか。

●文化・スポーツ振興課長（中山善文君） もちろん遠方の方、掛川出身の方、お城好きの方、いろんな方がいるので、ここまでやっているところはないが、松本城とかいろんなところでもそれに近いものをやっているところは、結構なアクセスがあると聞いている。

○委員長（山本裕三君） 以上で質疑を終結する。

〔産業労働政策課説明 10:39～10:43〕

〔質 疑 10:43～10:59〕

○委員長（山本裕三君） 担当課の説明が終わった。質疑をお願いします。

○委員（鈴木久裕君） 議案質疑の回答の中で、お客の接待をしてお客に遊興及び飲食をさせる営業店舗以外はいよいよということだが、接待を伴う状態の定義は具体的に、法令的にはどのような業種なのか。パチンコ屋もだめか。

●産業労働政策課長（溝口尚美君） 議案質疑の回答のとおりであるが、「風営法」第2条第5項に該当する以外は登録可能ということで考えており、ほとんどの飲食店は登録できると考えている。

○委員（鈴木久裕君） パチンコ屋も駄目か。

○委員長（山本裕三君） 地域経済応援事業費について、それぞれの自治体がプレミアム付商品券が出てきてというところで、掛川市も子育て世代には100%というところで非常に思い切った形である。事務費というところもかなり大きく挙がっていると思う。ぜひその中でお願いをしたいところは、利用率ナンバーワンをぜひ目指していただきたいというふうに思っている。その点において何か対策というかお考えがあればお聞きしたい。

●産業労働政策課長（溝口尚美君） 利用促進という意味では、一番は12月、1月に使うようにするというところで、商店の消費動向を見ると、12月、1月が最も消費が多いところである。それをまず狙っていること、また新聞折り込み等でPRをしていく。結局完売しないと利用されないため、買っていただくことが第一前提になる。今後、議決を頂いた後に要綱の起案を行う。まだ起案前であるので私たちの草案というレベルであるが、販売方法については、この前も説明させていただきましたが、クレジット決済を導入する。インターネットの利用が可能な方については、クレジット決済で、クレジットの情報をインターネットに登録したくないという方については、コンビニや銀

行振込で情報をこちらからメールでお知らせして、振り込んでいただく。中にはインターネット得意でないという方もいらっしゃるのですがこのような方達は現在の案だが郵便局に御協力をいただいて、市内17か所で、対面販売をできるようにしていきたい。それで販売数を増やすことによって利用が増える。買っていただければ恐らく使っていただけるので、販売数を増やしていくということで今考えている。

○副委員長（嶺岡慎悟君） 山本委員長と同じ内容にはなるが、事務費がかなり高い中で販売をできるだけ増やすというまったく同じ意見だが、今日、朝一で私、磐田市に確認したところ、磐田市が今販売の割合が50%ということで、残り来週、残り半分は、郵便局やセブンイレブンとかで販売ということになって、17万冊のうちの半分ということでしょうね、ということですけども、掛川市の場合、今、もし100%は目指すとは思いますが、実際になかなかやっぱり難しいところはあるかと思うが、例えば60%ぐらいしか売れなかったとなった場合に、40%、約1億円くらい余るかと思えますけれども、そういった場合とかどういうようなことで考えているのか教えていただきたい。

●産業労働政策課長（溝口尚美君） 今回の制度設計ですけども、各世帯1冊ということで今考えている。なるべく広報して買っていただく努力はする。不公平感が出てしまうので、2冊目、3冊目を2次販売するという事まではしないように考えている。

ただ、販売機会はなるべく今言ったような申込みも各個人の方の御都合で、なおかつ対面販売の場合も箇所が多いような販売をということで進めたい。

●産業経済部長（大石良治君） 最大限の努力をしていくが、今までの実績でいくとやっぱりお千代小判、これはかなりの購入率があった。このときのプレミアム率が一般世帯は20%であった。また中学生以下の子供が3人以上いた場合に71%のプレミアム率をつけていた。今回は、1万円に対して2万円と1万5,000円ということ。それと3密を避けることを極力やって、なるべく簡易な形のもので、市民に利便性が高いような形を取っておりますので、その辺をポスターとかチラシも含めて普及させていくとともに、また委員さん等にも宣伝をしていただきたいと思います。

それと、郵便局を使うのは、やはり高齢化率が掛川市は27%ぐらいあり、どうしてもいろんな形でできないかという方も出てきている。その中で、セキュリティポリシーの関係もあり、それだったら、来たはがきを持って、お近くの郵便局へ1万円を持って行って出してくれれば、1万5,000円の商品券をくれる。この販売を1か月くらいの期間やりたい。インターネット販売を補完したいということで、郵便局で販売する部分を高齢者に対するサービスということで考えているので、御理解いただきたい。

○委員（二村禮一君） 商品券の種類ですけれども、小規模店舗が3枚ずつになっている。前回やったときも、大型店舗のほうへほとんどいってしまって、意外と地元の商店は行かなかったということは聞いている。なぜ3枚にしたか。もうちょっとこれを増やすことができるか。

●産業労働政策課長（溝口尚美君） 今回の制度設計は、草案としては商工団体等、女性の方も含めてヒアリングを行った。全店共通でないと思うところがないという意見もあり、そうしないと買わないという回答が返ってきており、今の枚数を設定している。専門でやっているところで、小型店舗が多い川崎市や伊東市とかあるが、実は全然売れていない。30%売れていないというような。結局、現実的ではなくなってしまうそれとも困ることから、非常に悩んだ上での枚数設定となっている。

今回掛川市は初めてこういった枚数設定をやっている。今回の結果を次のデータに残せるように仕様作成もしていきたいと思っている。

○委員長（山本裕三君） 使用できる店舗は、理美容とかそういうのもいいのか。どういう範囲なのか。

●産業労働政策課長（溝口尚美君） 基本的に、先ほど言った以外は、全て対象である。あとは登録をしていただけるかどうかである。

○委員長（山本裕三君） 登録する際に、煩わしさ等あるか。

●産業労働政策課長（溝口尚美君） 今考えているのは、店舗名、業種、諸々の連絡先、住所等を書いてファクスで送っていただければ、それで登録できるようにしたいと思っている。

○委員長（山本裕三君） お釣りの扱いというのはどのようになっているか。

●産業労働政策課長（溝口尚美君） 今回も1,000円券で考えているため1,000円未満のお釣りは出ない。1,000円以上の買い物をしていただくというところで、ついで買いをしていただき、売上げが伸びてほしい思いがある。

○委員（山本行男君） 僕は本当にやっていてよかったなと思っている。掛川市は今までなかったから、うれしく思ってこの資料を頂き市民と話した。その中で1万円がない、厳しいという世帯もやっぱりある。そういう世帯への何かみたいなのは特にないと思うが、そういう議論はしたのか。本当に厳しいお宅もある。プレミアム率非常に高いから買いたいんだけど、聞いてみてという声を頂いたのでお聞きをしたい。

●産業経済部長（大石良治君） 今回、経済対策ということで商品券を扱ってきている。1つは、市域内の取引循環の加速化対策、これが我々としては、市民の支援ということもあるが、今そこを連結はしていない。ただ、10万円の給付がちょっと時間は経ったが、この部分とのリンクはしてい

るというふうにも考えている。経済自体も、今は50%回っているかどうか、大体こうやって3密を避ける関係もあるが、景気が悪い会社ばかりでもないという部分もあり、半分は経済効果のためにしていただく、あと生活支援の部分も含めてのプレミアムというと市長の訴えにより、我々の主張としましては、そのまま経費の関係考えますと、もう商品券をいきなり送ってということも考えた。

ただ、経済効果を考えますと、やはり全体の今の経済に困っている人、あと生活に困っている人の半々と考えて今回の施策ということで御理解いただければと思う。

○副委員長（嶺岡慎悟君） 先ほどの引き続きになりますけれども、去年のプレミアム商品券の実績としては、非課税世帯が大体40%、子育て世帯が大体60%ということでお聞きしている。先ほどのちょっと繰り返しになってしまうが、どんなに頑張っても限界も正直あるんじゃないかなというところもある。ここで話しするのは、もしかしたらこのタイミングで言うのは間違いなのかもしれないが、例えば、今お話に出たように、商品券の余った分が、1億円余った商品券を、例えば子育て世帯、1万1,000世帯、5,000円、大体多分ざっくり7,000万円とかでできるかと思うんですけども、その売上げの状況を見ながら、余ればほかの予算、事業に回せるというのはあるかと思いますが、この経済対策をやるという意味では、ぜひ余った部分に関しても皆さんに還元できるような政策ができないかということでお聞きしたい。

●産業経済部長（大石良治君） まずは、これを行政としては100%形にすることに最大限の努力をする。浜松は期間を延長してやっているため、3密対策をしっかりと行い、状況を勘案してやらなくちゃいけないという部分がある。第2次の交付金であるため、年度末までには必ずきっちりしなさいという部分があるが、どこの段階でどういうふうに変化をしていくか。今回、とにかく経済対策は走りながらいろんなものを変更していますので、十分その点も含めて途中での変更があり得るのかもしれない。ただ、今の公平性ということで、全てに対して100%、チラシもしくはポスターでやることに努力をさせていただくと。その後、どういう形が市民から、市民受けするのかしないのかを含めて、それは状態が変更する可能性があることを御理解いただきたい。

○委員（鈴木久裕君） 前の説明資料で、発売開始というか販売時期が11月中旬ぐらいから12月下旬までを見込むということだったが、やっぱりここら辺が今一生懸命急いでも限度ということなのか。

●産業労働政策課長（溝口尚美君） 一番時間がかかるのは、商品券の印刷である。印刷業者は、これから見積りなどをいただく。もちろん事前にヒアリングする。印刷のできる印刷メーカーは全国では限られており、早くて1年半かかる。通常が一番多い納期は3か月と言われていて、何とか1年半で納品していただいて、なるべく早く販売したいというふうに思っている。なかなかこれを

前倒しにするのは大変。やはり偽造防止の加工はさせていただきたい。あとトラブルもあってはいけないため、番号を振らせていただきたい。その2つはどうしてもやっておきたい。本日、御審議いただいて、議決可決させていただいたら、早期に今準備をしていますので、説明をさせていただいて、できれば10月中旬には何とか納品していただきたいというふうに頑張ってみたいとは思っている。なるべく早くできるように、努力はさせていただく。

○委員長（山本裕三君） 以上で質疑を終結する。

〔農林課説明 11:00～11:03〕

〔質 疑 11:03～11:04〕

○委員長（山本裕三君） 担当課の説明が終わった。質疑をお願いします。

○委員（鈴木久裕君） 農業施設災害復旧箇所図で、大尾大日山線は特に意味があるわけじゃなく、線を塗っちゃったとそんな感じか。

○農林課長（高柳和正君） 大尾大日線は特に今回の災害とは関係はない。

○委員（鈴木久裕君） 一応、この6月、7月の大雨の災害箇所については、全部拾い切ったということでしょうか。

○農林課長（高柳和正君） そのとおりである。

○委員長（山本裕三君） 以上で質疑を終結する。

〔土木防災課説明 11:05～11:06〕

〔質 疑 なし 〕

○委員長（山本裕三君） 担当課の説明が終わった。質疑をお願いします。

○委員長（山本裕三君） 以上で質疑を終結する。

〔討 議 11:07～11:12〕

○委員長（山本裕三君） 委員間討議をお願いします。

○委員（鈴木久裕君） プレミアム付き商品券について、非常にいろいろ工夫して、いい制度だと思う。ぜひ頑張ってください。何にしても余り向こうへいってしまうと、販売もそうだし、利用期間も限られてきちゃうので、なるべく早くということで、御回答はいただきましたけれども、頑張ってくださいなというふうに思う。

○副委員長（嶺岡慎悟君） プレミアム付商品券に関して期待をしたい。山本委員が言われたように、やっぱり1万円を出せない方とかという方もいらっしゃるというのはやっぱり僕たちはしっか

り把握しながら、理由はあるかとは思いますが、ぜひそういうのも見ながら今後、この政策をしっかりと見て、コロナがまたどうなっているか、またもしかしたら必要になるかもしれないし、そういうのも踏まえながらしっかりと僕たちも注視していかなくちゃいけないなというところだと思う。

○委員長（山本裕三君） プレミアム付商品券の 3,000円の枠を使えるお店をある程度開拓をしていていただきたいなというふうには思う。使えるお店を少しでも増やしていただいといるところその対策も同時に。

○委員（榛村航一君） どこが対象なのか。例えばすいのやとか。

○委員（鈴木久裕君） 風営法以外の飲食店はいいということであれば、登録すれば普通の飲み屋さんでも使えるのかなというふうに私は判断した。

○委員長（山本裕三君） 3,000円ぽっきり商品みたいのを各お店で、3,000円ぽっきり飲み放題プランとか、3,000円でぴったり払えるという商品を開発していけば、使いやすいのでは。

○委員（鈴木久裕君） 小規模店舗専用券ということは、3,000円券は小規模店舗でしか使えないけれども、小規模店舗でも1万2,000円も使うことができるから、男性でも使うところがあるんじゃないかと思う。

○委員（榛村航一君） 街なかの飲食店もいいんじゃないか。

○委員（鈴木久裕君） だから、登録してもらうことが大事である。

○委員長（山本裕三君） 飲食店でそういうパックを作って、登録店舗一覧みたいな感じで作れば、地域経済は効果的かなと思いますけれども。

○委員（榛村航一君） 今、委員長が言ってくれたとおりで、今回のこの委員長報告に入れても僕はいいのかなと思う。3,000円だったら、「3,000円ぽっきりメニュー」みたいなのを商店街の人たちにも何か提案するというか、ぜひ作ってくださいというような働きかけをしたほうがいいのかなと思う。

○委員長（山本裕三君） 飲食店だけじゃなくて、和菓子屋さんだったら和菓子屋 3,000円セットとか。

○委員（榛村航一君） 12月だから、贈答品含めて 3,000円お歳暮セット。

○委員（二村禮一君） 消費税込みで作らなくてはいけないのでは。消費税分支払うのは面倒くさくなっちゃうと思うから。

○委員長（山本裕三君） ある程度そこは、お店側で調整して、3,000円パック商品を各業種で作っていくというのを、委員長報告でお伝えしようかなというふうに思います。

○委員長（山本裕三君） 以上で討議を終了します。

〔討 論〕

なし

〔採 決〕

議案第103号 令和2年度掛川市一般会計補正予算（第6号）について

全会一致にて原案とおり可決

3) その他

4) 閉会 11:13